

Ⅲ 委員会活動

1 学内委員会

1) 委員会および委員一覧

委員会	委員 (◎: 委員長、○副委員長)
教務委員会	◎丹澤 洋子・新村 直子 (准教授)、阿部 ケエ子・飯室 淳子・蔵本 文乃・橘田 節子 (講師)、中村 李菜 (事務室員)
学生委員会	◎淵田 明子 (准教授)、千葉 美果 (講師)、端山 淳子 (助教)、古市 慶子 (事務室係長)
現代文明論委員会	◎小川 景子・淵田 明子 (准教授)、萱嶋 美子・千葉 美果・後藤 雪絵・坂本 優子 (講師)、端山 淳子 (助教)
国際交流委員会	◎吉田 礼子 (学長付・教授)、鈴木 陽子 (デンマーク看護研修団長・教授)、寺村 絵美 (事務室員)
国家試験対策委員会	◎鈴木 陽子・中田 芳子 (教授)、阿部 ケエ子・千葉 美果 (講師) 2年生代表: 橘田 節子 (講師)、寺村 絵美 (事務室員)
ハラスメント防止人権委員会	人権委員: 非公開 相談委員: ◎淵田 明子 (准教授)、飯室 淳子 (講師)、古市 慶子 (事務室係長)
FD委員会	◎中田 芳子 (学科主任・教授)、鈴木 陽子 (教授)、萱嶋 美子 (講師)
倫理委員会	◎吉田 礼子 (学長付・教授)、坂部 貢 (外部委員)、中田 芳子 (学科主任・教授)、鈴木 陽子 (図書館長・教授)、望月 好子 (総合看護研究施設所長・准教授)
教育年報編集委員会	◎中田 芳子 (学科主任・教授)、望月 好子 (総合看護研究施設所長・准教授)、丹澤 洋子 (教務委員長・准教授)、寺村 絵美 (事務室員)
研究活動の不正防止対策委員会	◎灰田 宗孝 (学長・教授)、吉田 礼子 (学長付・教授)、中田 芳子 (学科主任・教授)、鈴木 陽子 (図書館長・教授)、新村 直子 (健康推進室長・准教授)、望月 好子 (総合看護研究施設所長・准教授)、一野谷 陽一 (事務室長)
省エネルギー推進委員会	◎灰田 宗孝 (学長・教授)、吉田 礼子 (学長付・教授)、中田 芳子 (学科主任・教授)、鈴木 陽子 (図書館長・教授)、新村 直子 (健康推進室長・准教授)、望月 好子 (総合看護研究施設所長・准教授)、一野谷 陽一 (事務室長)
大学評価委員会	◎吉田 礼子 (学長付・教授) (ALO)、中田 芳子 (学科主任・教授)、鈴木 陽子 (教授)、丹澤 洋子・望月 好子 (准教授)、一野谷 陽一 (事務室長)

2) 各委員会活動

(1) 教務委員会

A 位置づけ・役割

本委員会は学長の諮問機関であり、教務委員会規程に則って活動する。委員会決定事項は、教務委員長から学科主任へ報告し、必要時企画調整会議に図り、教授会で審議・報告される。

B 活動概要

委員会活動は、前年度の引継ぎ事項を確認し、教務委員会年間活動計画に基づき活動した。本学の教務に関する事項を審議する事を目的とし、今年度も「看護技術教育検討小委員会」、「安全教育検討小委員会」の2つの小委員会を設けて取り組んだ。

今年度の活動の概要を以下に示す。

① 看護技術教育検討小委員会の活動内容と評価

a. 「看護技術到達度記録」の活用

- ・学生が効果的に活用し自己評価できるように、全学生に対してガイダンス時に説明し、評価への動機づけを行った。
- ・東海大学医学部附属病院と東海大学医学部附属大磯病院の臨床指導者に対しては、実習打合わせ会で説明し、他の施設の指導者に対しては、各看護学実習担当教員に説明を依頼した。
- ・3年生に対しては、夏季休暇に「看護技術到達度記録」を回収し記入状況の確認をした。また、後期ガイダンス時に「卒業時の到達度欄」への記入について説明を行った。

統合実習終了後には「自己の卒業時の到達度」の自己評価が確実に行われるよう、実習担当教員に依頼した。

- ・1年生と2年生に対しては、後期の授業・試験終了後に「看護技術到達度記録」を回収し記入状況の確認を行った。

b. 「看護技術到達度記録」用紙の変更

- ・これまでの記載状況の確認の結果、達成状況の評価がされず記載が不足している。理由の記載も不足しており記載のしづらさも影響しているのではないかと考えられる。また、学習過程のなかで求められている到達度まで達成してしまうとそれ以降の見直しがされない。以上のような問題点が指摘された。1・2年次の講義・演習と、各臨地実習における振り返りを確実にを行い、自己の技術達成度を自己評価する意識を向上していくことができるよう検討を行った。

講義・演習・実習にて評価できる表とし、「看護技術到達度記録」と「自己評価の手引き」を1冊にまとめ、学生が3年間使用することを踏まえ、ハードカバーをつけた冊子とし、次年度からは、全学年を対象に活用することとした。

c. 「臨地実習における看護技術水準の手引き」の活用と修正

- ・学生が臨地実習に於いて、患者の安全と自身の安全のもと看護技術の提供が行えるよう、ガイダンスで活用について説明した。
- ・東海大学医学部附属病院と東海大学医学部附属大磯病院の臨床指導者に対しては、実習打合わせ会で説明し、他の施設の指導者に対しては、各看護学実習担当教員に説明を依頼した。
- ・「総説 26-12. 臨地実習における看護技術水準の手引き」が見にくいとの意見を受け、記載方法を検討した。

手引きと看護技術水準表を別にし2ページとした。内容の見直しも行き、活用しやすい手引きとなるよう修正した。

d. 実習用物品(附属病院・大磯病院)の調査

- ・前年度の実習に関する意見として、実習病棟での実習用備品の不足と補充についての問題提起があった。このことを受け、東海大学医学部附属病院と東海大学医学部附属大磯病院の実習病棟を対象に、前期後期の実習期間において上記の実習病棟担当教員に依頼し、実習物品調査を行った。結果、各病棟に常備しておきたい物品として、今まである物品としてダブル聴診器 2 本、血圧計 2 台、水温計 1 本、新たに追加したい物品は、SpO₂モニター 1 台であった。また、ペンライト、瞳孔計、角度計が必要な病棟があることがわかった。

附属病院との情報交換会と、東海大学医学部附属病院実習協議会で報告し、購入については臨床と学校で協議して行くこととなった。

② 安全教育検討小委員会の活動内容と評価

a. 「ヒヤリ・ハット報告」の集計・分析と検討

- ・年 2 回(前期、年間)「ヒヤリ・ハット報告」の集計と年 1 回の分析を行った。ヒヤリ・ハット内容とその原因から、学生の傾向や指導側の問題が見出され、委員会での検討と 3 月の報告会で、現状を共有し、今後の対策について検討した。

本年度は、実習開始前に SNS に対する注意事項を 2 年生と 3 年生対象にオリエンテーションをした。この成果もあり、SNS に関するヒヤリ・ハットの発生はなかった。

b. 「ヒヤリ・ハット報告」の集計と分析結果の活用

- ・全学生に対して、看護学実習ガイダンス時にヒヤリ・ハットの現状、そこから考えられる学生の傾向と対策について説明することで、安全への意識づけを図った。
- ・臨床側とも、実習打合わせ会や各実習毎に説明し、指導側としての意識づけを行っている。

c. 実習記録の保管・廃棄

- ・保管実習記録の閲覧はなかった。
- ・1 年生と 2 年生の実習記録は施錠できる所定の場所に保管され、3 年生(2013 年度卒業生)の 3 年間の実習記録は完全溶解の依頼をした。

③ 講義・演習・実習に関する意見の収集と対策

前期・後期授業終了後、各教員から講義・演習・実習に関する意見を収集し、委員会において検討した。問題点や意見と委員会での検討結果を一覧にし、全教員に配付することで現状を共有した。委員会において検討した内容を、学科主任・関係部署に報告・依頼することで、現状の中でできる最大限の学習環境整備や問題状況の改善につなげた。

④ 看護学実習ガイダンス、領域別オリエンテーション、実習病院(東海大学医学部附属病院、東海大学医学部附属大磯病院)との打合わせ会の企画・実施

a. 看護学実習ガイダンスについての企画と運営

b. 3 年生の領域別(看護学別)実習オリエンテーションの日程調整

c. 東海大学医学部附属病院、東海大学医学部附属大磯病院との打合わせ会の企画と運営

⑤ 実習評価について

2013 年度実施された全看護学実習の実習評価を、看護学実習担当責任者に作成・提出を依頼した。それらをまとめ一覧表とした。

各看護学実習において今年度の評価・反省を活かし学生にとって効果的な実習となるよう、看護系教員に配付し、関係諸施設、臨床実習指導者などと連携していくための資料として活用する。

⑥ 2014 年度の 3 年生実習グループ編成の作成、2014 年度以降の実習計画の立案

a. 2014 年度の 3 年生実習グループ編成の作成

- ・教務委員長が作成し、委員会会議と 2014 年度 3 年生の指導教員の確認を受け決定した。

b. 2014 年度以降の実習計画の立案

- ・2014 年度の実習計画は、2013 年 7 月に開催した東海大学医学部附属病院実習協議会で承認された。2015 年度の実習計画(案)を作成し、2014 年 2 月に開催した上記協議会に提出した。2015 年度以降も、東海大学健康科学部看護学科のカリキュラム変更や、東海大学医学部附属病院と東海大学医学部附属大磯病院の実習の受け入れ状況から、計画内容の調整・検討が必要となる。

⑦ 実習要綱総説の見直しと修正について

実習時間中の携帯電話について、実習記録の記述と取り扱い上の留意事項、日々の体験記録について、に関して一部内容を修正・変更した。

⑧ 実習記録の受け渡しに関する取り決め事項

実習記録の紛失を未然に防ぐ目的で、受け渡しの原則を定めた。2014 年度から東海大学医学部附属病院、東海大学医学部附属大磯病院、東海大学医学部附属八王子病院での実習で適用する。

⑨ 身体侵襲を伴う看護技術演習「同意確認書」の確認・保管

入学にあたって、身体侵襲を伴う看護技術演習「同意確認書」について文書で提示し、新入生オリエンテーション時に学科主任から学生・保護者に説明がなされた。この説明後に提出された同意確認書の内容を、教務委員長が確認し所定の場所に保管した。

身体侵襲を伴う看護技術の演習では、科目担当者が同意確認書の内容を確認し、所定の手続きを行い実施することとなっている。今年度も、これに則って演習が行われた。

⑩ 教務委員会報告会の開催

今年度も、2013 年 3 月に全教員を対象に教務委員会報告会を開催し、年間ヒヤリ・ハットの集計結果とその傾向と対策、教員から出された講義・演習・実習に関する意見・問題点とそれらに対する委員会の検討結果の報告、実習用物品(附属病院・大磯病院)の補充・購入、さらに、実習記録の受け渡しに関する取り決め事項の報告を行った。

ヒヤリ・ハット内容として記録にすることが最多であるため、引き続き記録の取り扱いについて意識づけていく必要性を確認した。USB の管理について討議がなされた。次年度の実習要綱総説に USB にパスワードの設定を行うことを追記したことと、看護学実習ガイダンスや各実習オリエンテーション時に情報の保護という視点から管理の必要性を説明していく。

基礎看護学領域から、領域が保管している機器の一覧表を作成し貸借ができるよう整えていくとの報告があった。機器類の効率的な活用に向け、他の領域でもこのような体制を整える必要があるかは今後の課題となる。

C 委員会開催状況

回	開催日	議 題
1	4 月 10 日 (水)	① 活動目標・計画、役割の確認 ② 実習打合わせ会の最終確認 ③ 3 年生・2 年生看護学実習に関するガイダンス実施報告 ④ 2013 年度における実習記録の完全溶解

		⑤ 「身体侵襲を伴う看護技術演習の同意確認書」の提出状況
2	5月8日(水)	① 小委員会の活動目標・年間計画 ② 実習打合わせ会の実施報告 ③ 手術衣の購入と保管
3	6月12日(水)	① 2014年度実習計画(案)の確認 ② 1年生(13KF)看護学実習に関するガイダンスの役割等の確認 ③ 看護技術教育検討小委員会からの報告および検討 a. 実習用物品(付属病院・大磯病院)調査
4	7月11日(水)	① 2014年度実習計画(案)の最終確認、2015年度実習計画(案) ② 前期、講義・演習・実習に対する意見の収集 ③ 1年生(13KF)看護学実習に関するガイダンス実施報告 ④ 看護技術教育検討小委員会からの報告および検討 a. 3年生の「看護技術到達度記録」への記載の確認
5	9月5日(木)	① 前期、講義・演習・実習に対する意見と検討 ② 安全教育検討小委員会からの報告および検討 a. 前期、「ヒヤリ・ハット報告」集計の報告
6	10月9日(水)	① 2014年度実習要綱総説の検討 ② 看護技術教育検討小委員会からの報告および検討 a. 「看護技術到達度記録」用紙の検討
7	11月13日(水)	① 2014年度実習要綱総説の修正の確認 ② 看護技術教育検討小委員会からの報告および検討 a. 「看護技術到達度記録」用紙の検討
8	12月11日(水)	① 後期、講義・演習・実習に対する意見の収集 ② 2013年度実習評価 ③ 2014年度看護学実習オリエンテーション日程 a. 3年生・2年生看護学実習に関するガイダンス b. 3年生領域別(看護学別)実習オリエンテーション c. 手術室オリエンテーション d. 1年生看護学実習に関するガイダンス ④ 看護技術教育検討小委員会からの報告および検討 a. 「看護技術到達度記録」用紙の検討 b. 2014年度実習要綱総説 「臨地実習における看護水準の手引き」の修正
9	1月8日(水)	① 2014年度1年生看護学実習に関するガイダンス ② 2014年度3年生 実習グループ編成(案) ③ 2014年度3年生・2年生 看護学実習に関するガイダンス(案) ④ 2014年度3年生 領域別(看護学別)実習オリエンテーション ⑤ 看護技術教育検討小委員会からの報告および検討 a. 実習用物品(付属病院・大磯病院)調査の結果報告
10	2月19日(水)	① 2014年度3年生・2年生 看護学実習に関するガイダンス(案) ② 2014年度3年生 実習グループ編成(案) ③ 2014年度3年生 領域別(看護学別)実習オリエンテーション日程 ④ 2014年度3年生看護学実習に関するガイダンス

		⑤ 2014 年度実習打合せ会の配布資料 ⑥ 2013 年度実習評価 ⑦ 後期、講義・演習・実習に対する意見と検討 ⑧ 実習記録の受け渡しに関する取り決め事項 ⑨ 安全教育検討小委員会からの報告および検討 a. 2013 年度「ヒヤリ・ハット報告」の集計分析結果報告と今後の対策 b. 「実習記録」の回収と廃棄 ⑩ 教務委員会報告会について
11	3 月 12 日 (水)	① 小委員会年間活動評価 ② 教務委員会年間活動評価 ③ 2014 年度実習打ち合わせ会の確認 ④ 2014 年度 3 年生・2 年生 看護学実習に関するガイダンスの最終確認

(2) 学生委員会

A 位置づけ・役割

本委員会は学生会活動を側面から支援し、学生一人ひとりが社会人として学生生活を有意義に送るために組織されている。学生と共に考え、一人一人の学生の主体性を尊重し、支援している。

B 活動概要

学生会活動（学生総会、選挙管理委員会、飛鷗祭、学生交流会、学友会、東海大学短期大学（部）スポーツ大会など）を中心に学生の活動を支援した。

〈学生の活動〉

- ・昨年度末に学生会室の掃除をし、物品の整理が図られた。
- ・男子ロッカーが J 館に移転した。
- ・飛鷗祭では精華園という外部施設とのコラボレーション企画ができ、地域との交流を図るとともに看護学生らしい企画となった。また、スポーツ大会は昨年まで飛鷗祭の中で行われていたが学生の希望により別の日に開催された。
- ・バレー部と空手部は入部者がいないため、今年度は休部となった。が、昨年度まで、コーラスとして活動していたリンクが音楽活動のサークルとして変更し、精華園へ訪問し活動した。

〈来年度の課題〉

- ・学生会活動は学生主体の活動であり、大学生として自立した活動ができるよう支援していく。
- ・来年度は開学 40 周年記念の年に当たるため、記念となるような企画を学生に促していきたい。
- ・飛鷗祭の初日は例年、学園の式典と重なり教職員が学生のサークル活動の発表を見ることが出来ないため、来年度は学生と相談しスケジュール調整を行う。

C 委員会開催状況

回	開催日	報告・議題
1	4 月 16 日 (火)	【報告】 学生交流会について 【議題】 ① 2013 年度学生委員会活動方針と活動計画 ② 役割分担について ③ 年間計画について

		<ul style="list-style-type: none"> ④ 学生交流会について ⑤ 学生総会について ⑥ 飛鷗祭の引き継ぎについて ⑦ 謝恩会・卒業アルバムについて ⑧ SNS対策について
2	6月10日(月)	<p>【報告】飛鷗祭実行委員役員決定について 学生総会、三者懇談会及び懇親会について</p> <p>【議題】① 飛鷗祭の進行状況 ② 短期大学(部)スポーツ大会 ③ 男子ロッカー移動について</p>
3	10月21日(月)	<p>【議題】① 3短期大学(部)スポーツ大会の実施状況と来年度の課題 ② 医療短大のスポーツ大会について ③ 飛鷗祭の進捗状況と今後の指導 ④ 男子ロッカー移動場所について</p>
4	11月27日(水)	<p>【議題】① 飛鷗祭の振り返り ② 選挙管理委員会の設置と今後の指導 ③ 謝恩会について</p>
5	3月11日(火)	<p>【報告】新年度役員決定 国家試験激励 謝恩会の進行状況 卒業アルバム作成</p> <p>【議題】① 学生交流会について ② 年報について ③ 年間の振り返り</p>

(3) 現代文明論委員会

A 位置づけ・役割

本委員会は、現代文明論委員会の規程にもとづき、講義の編成、運営を行う。

B 活動概要

今年度の授業運営は、昨年の方法を踏襲して実施した。毎回、2名の委員会員が授業運営を行い学生の出席状況、授業態度や受講用紙の提出状況等を所定の用紙に記録した。また、受講用紙の記載状況について必要に応じ委員長へ報告し、受講用紙の書き方について随時委員長が全体にむけて説明した。委員会では、学生の授業態度や出席状況等について検討を行い必要時、委員長が対応した。

学生の授業態度は、前期は私語もなく比較的よかったが、後期になると居眠りが増え欠席者も増加した。適宜、全体または個別に注意を行ったが十分な改善が見られなかった。こうした状況は、後期になり大学生活に慣れてくることも一因と考えられる。学生が、授業に参加する姿勢を身につける様に指導を行っていく必要がある。

講義では、最初に講師から現代文明論を学ぶ意味や講義と現代文明論との関連を説明して頂くことで、学習の動機づけを行った。また、受講用紙に対する講師のコメントを掲示して、コメントを読むことまでが一連の学習であり講義のまとめになることを伝えた。第15回の「まとめ」の時間には、これまでの講義内容をふまえ学生が興味・関心を持ったことに焦点を当ててレポートを作成しグループで意見交換を行った。他の学生の発表を聞き意見交換を行うことで、1つのテーマについて様々な角度から考えることや根拠となるデータを示し意見を述べることの重要性を

認識する機会となった。

C 委員会開催状況

回	開催日	議 題
1	4月2日(火)	① 諸規定及び運営方法について ② 年間スケジュール ③ 現代文明論Ⅰのガイダンスについて
2	6月3日(月)	① 現代文明論Ⅰの現状について ② 第15回(まとめ)のグループワークについて
3	8月6日(火)	① 第1回現代文明論教育機関連絡調整会議・報告 ② 現代文明論Ⅰの成績について ③ 現代文明論Ⅰ現状とまとめ ④ 現代文明論Ⅱのガイダンスについて
4	9月3日(火)	① 現代文明論Ⅰまとめ ② 「学習の到達目標」について
5	12月19日(木)	① 第2回現代文明論教育機関連絡調整会議・報告 ② 現代文明論Ⅱの現状について ③ 第15回(まとめ)のグループワークについて ④ 2014年度の講師について ⑤ 2014年度のシラバスについて
6	2014年 2月5日(水)	① 現代文明論Ⅱの成績について ② 現代文明論Ⅱまとめ ③ 課題レポート採点基準について
7	2014年 3月5日(水)	① 現代文明論Ⅱ授業評価について ② 年報について ③ 課題レポートについて

(4) 国際交流委員会

A 位置づけ・役割

本学主催のデンマーク看護研修に対する支援を中心に、東海大学主催の航海研修およびハワイ語学研修、その他国際交流に関する支援を行う。

B 活動概要

2013年度第39回デンマーク看護研修は、独立行政法人日本学生支援機構「留学生交流支援制度(短期派遣)プログラム」に採択され、奨学金を得ることができた。資格要件として、経済状況と成績が示されたが、特に成績については本学での算出方法を定め参加者の状況を確認した。昨年よりはやや減少したが、学生15名の参加があった(1年生7名、2年生8名)。今年度の研修にあたっては、昨年デンマーク看護学生が来日した際同行された教員と事前に打合せができたことも、シルケボー地区でのプログラム進行に役立った。

海外研修航海およびハワイ語学研修については、学生の参加者はなかったが、海外研修航海に蔵本文乃講師が団役員として派遣を受け乗船した。

C 委員会開催状況

回	開催日	議 題
1	5月29日(木)	① 2012年度デンマーク看護学生受け入れの評価について ③ 2013年度第39回デンマーク看護研修の進捗状況と検討について ④ その他
3	11月26日(火)	① 2013年度デンマーク看護研修報告・評価 ② 2014年度デンマーク看護研修に向けて ③ 2013年度海外研修航海・ハワイ語学研修応募状況
4	3月20日(月)	① 2014年度デンマーク看護研修に向けて ② 2014年度デンマーク看護学生研修団受け入れについて

(5) 国家試験対策委員会

A 位置づけ・役割

本委員会は学長の諮問機関であり、3年生の指導教員と2年生の指導教員代表で構成し、学生国家試験対策委員、事務室の看護師国家試験担当および図書館等と連携・協働しながら、看護師国家試験に全員が合格することを目指し、学生への支援を計画立案・実施する。

B 活動概要

第103回看護師国家試験受験対象者の全員合格を目指し、学生の国家試験対策委員を中心として、学生が主体的に活動できるよう教育的支援を行う。また、2年生に対しても、学生の国家試験対策委員が中心となり主体的・計画的に国家試験対策に取り組めることを活動方針とした。

主な活動は小委員会を設けた。3年生は、看護師国家試験出題基準（平成26年度版看護師国家試験出題基準）を基本に学習内容を設定し計画的に取り組むことができるように指導、助言した。特に「看護の統合と実践」やその他追加や修正となった新基準については、概要説明と各科目担当教員による補講にて解説を加えた。計画的な具体的活動としては、①ガイダンス②補講（頻出問題及び平成26年看護師国家試験の改正）に対応させた科目の設定③業者模擬試験（4回）④過去5年間（第98回～第102回）の看護師国家試験問題⑤前年度（2012年度）卒業生による国家試験の取り組み経験の話を聞く機会設定⑥指導教員による学習内容や方法の指導、等であった。学生は5月から12月までの実習期間は実習グループ毎の学習を中心とし、指導教員4名は実習グループ毎の担当制としグループや個別の学習支援を担った。そして、模擬試験などの結果を踏まえ、特別に支援を要する学生に対し強化を図った。また、既卒者への対応は、事務室を通して補講や模擬試験の日程等の情報を提供した。

2年生は、学生の国家試験対策委員と話し合い、9月に低学年向け模擬試験を実施した。2月の定期試験終了後に、1, 2クラス合同のクラス会を行い、1年間の振り返りと今後の学習への取り組みについて意識付ける機会とした。

3年生の国家試験対策については、指導教員による全体及び個別（グループ・個人）指導とともに、学生の委員会メンバーの活動は非常に主体的で活発であった。指導教員と連携を取りながらも学生全体への積極的な働きかけができていた。そのため、模試や補講等も順調に進行することができ、全体が意欲的な学習の向上に繋がっていた。しかしながら、国家試験対策に関するアンケートの結果では、学習の必要性を自覚し本格的に取り組む始めるのは全臨地実習終了後の12月中旬からであった。また、学生によっては冬期休暇中も十分な学習に取り組むことができず1月の補講に依存した取り組みになってしまっていた。1月以降は全体的に精力的で集中した取り組みができたが、長期的でかつ計画的な学習ができた学生は少なかったようである。従って、今後はさらに早期から計画的・主体的に臨地実習と平行しながら学習することを支援していくこと

を強化する必要がある。また、模擬試験は実施後の結果返送までに時間を要することから、個人や全体の成績、科目毎の成績等を分析し受験対策に繋げていくには、さらに模擬試験の種類や方法（公開模試等）、実施時期や回数を検討する必要がある。

C 委員会開催状況

① 3年生

回	開催日	報告・議題
1	4月10日(水)	<p><報告・連絡事項></p> <p>① 3年生の春期休暇中の取り組み</p> <p>② 3年生の2年次の国家試験対策実施状況</p> <p>③ 3年生の学生国家試験対策委員会の結果</p> <p><審議事項></p> <p>① 2013年度活動目標・年間活動計画、役割分担</p> <p>② 指導教員による国試ガイダンス及び業者によるガイダンス(4/10)</p> <p>③ 3年次第1回目模擬試験(4/15)の実施</p>
2	5月22日(水)	<p><報告・連絡事項></p> <p>① 3年生の活動(講義・実習・国試対策等)状況</p> <p>② 3年次第1回目模擬試験の結果</p> <p>③ 3年生の学生国家試験対策委員会の結果</p> <p><審議事項></p> <p>① 3年次第1回目模擬試験結果の評価と今後の学習支援</p> <p>② 過去5年間(第98回～第102回)の看護師国家試験問題の具体的な試験実施時期・方法</p>
3	7月3日(水)	<p><報告・連絡事項></p> <p>① 3年生の活動(実習・国試対策等)状況</p> <p><審議事項></p> <p>① 年間の補講計画及び夏期休暇中の補講内容と講師依頼</p> <p>② グループ学習の支援</p> <p>③ 3年次第2回目模擬試験(7/31・8/1・8/2)の実施</p> <p>④ 夏期休暇中の取り組み</p> <p>⑤ 「卒業生から国家試験の取り組み経験の話を聞く」(7/29)の進行</p>
4	9月4日(水)	<p><報告・連絡事項></p> <p>① 3年生の活動(実習・国試対策等)状況</p> <p>② 3年次第2回目模擬試験の結果</p> <p><審議事項></p> <p>① 3年次第2回目模擬試験結果の評価と今後の学習支援</p> <p>② 後期(12月～1月)の補講計画と講師依頼</p>
5	11月25日(月)	<p><報告・連絡事項></p> <p>① 3年生の活動(実習・国試対策等)状況</p> <p><審議事項></p> <p>① 3年次第3回目模擬試験(11/26)の実施</p> <p>② 模試結果及び冬期休暇を含む学習取り組みの強化対策</p>

		③ 強化支援を要する学生の学習計画
6	12月17日(火)	<報告・連絡事項> ① 3年生の活動(実習・国試対策等)状況 ② 3年次第3回目模擬試験の結果 <審議事項> ① 3年次第4回目模擬試験(1/7)の実施 ② 3年次第3回目模擬試験結果の評価と今後の学習支援 ③ 1月の補講計画の確認と準備 ④ 「卒業生から国家試験の取り組み経験の話を聞く」(12/20)の進行 ⑤ 強化支援を要する学生の学習計画
7	1月22日(水)	<報告・連絡事項> ① 3年生の活動(国試対策等)状況 ② 3年次第4回目模擬試験結果 ③ 第103回看護師国家試験の受験要項(受験者注意事項)等の確認 <審議事項> ① 3年次第4回目模擬試験結果の評価と今後の学習支援 ② 国家試験当日・前日等の注意事項と対応 ③ 強化支援を要する学生の学習計画
8	3月27日(木)	<報告・連絡事項> ① 第103回看護師国家試験の結果 <審議事項> ① 国家試験対策委員会の活動評価 ② 次年度への引き継ぎ事項

② 2年生

回	開催日	報告・議題
1	4月26日(木)	<報告・連絡事項> ① 10KF生国家試験対策委員より、11KF国家試験対策委員への申し送り会実施報告 ② 春期休暇の課題の取り組み、4月5日テスト結果報告 <審議事項> ① 国試対策委員選出
2	5月22日(火)	<報告・連絡事項> ① 業者ガイダンスについて
3	6月27日(水)	<報告・連絡事項> ① 11KF生の国家試験対策取り組みについて ② 業者ガイダンス開催報告・アンケート結果開示
4	7月10日(火)	<報告・連絡事項> ① 夏季休暇中の国家試験対策について ② 夏季休暇終了後の対応について ③ 11KF生の国家試験対策取り組みについて
5	1月24日(木)	<報告・連絡事項> ① 2012年度活動報告

		<審議事項> ① 春期休暇中の課題設定について ② 2月1日業者模試について
6	2月19日(火)	<報告・連絡事項> ① 11KF 生国家試験対策振り返り会の報告 ② 春期休暇課題対象者への対策について <審議事項> ① 次年度国家試験対策委員長選出 ② 2013年度活動計画 ③ 指導方法

(6) ハラスメント防止人権委員会

A 位置づけ・役割

本委員会はハラスメントの防止及び被害者救済に関し必要な事項を定め、本学の学生及び教職員等の修学若しくは就労又は教育、研究における環境の健全化を図り維持することを目的としている。

B 活動概要

1. ハラスメント防止人権委員会規定、ハラスメント調査委員会規定、ハラスメント相談窓口に関する規則の改定を検討した。
2. ハラスメントに関する苦情相談、救済と対応のため相談窓口を例年通り設置した。2013年度の相談委員名については、キャンパスナビに記し、学生ガイダンスで伝えている。学生ガイダンスの際に、「ハラスメントの加害者にならないために」について、また「被害にあった場合の対応や相談窓口」について説明した。

2013年度全体を通して、学生および職員からの相談はなかった。

C 委員会開催状況

定例委員会は、開催しなかった。

(7) FD 委員会

A 位置づけ・役割

大学設置基準・短期大学設置基準の改正により、2008年4月から大学・短期大学におけるFDが義務化された事をうけ、同年、本学における教員の資質開発を目的としFD委員会が設置された。委員会は、以下の活動を行う。

- a 教育活動支援
- b 研究活動支援
- c その他、教員の関わる活動に関する支援

B 活動概要

1. 2013年度 研究・教育活動報告会

目的：教員各自が取り組んでいる研究活動、教育活動とその成果を共有し、今後の研究・活動に活かす。

日時：2014年3月4日(火) 10:00～14:30

出席：教員 18 名

- 内容：午前 発表 1 吉田 礼子「デンマーク及び日本の看護教育の比較」
 発表 2 新村 直子「家族看護事例検討会の報告」
 発表 3 小川 景子「戦後日本の家族計画運動の実際-運動を促進させた取り組みを中心に-」
 発表 4 岩屋 裕美「看護技術習得における自己調整学習方略尺度開発の試み-首都圏の看護短期大学及び専門学校の学生を対象とした調査より-」
- 午後 提案 中田 芳子「アンケート結果から今後の本学の FD 活動について」
 研修報告 萱嶋 美子「大学コンソーシアム京都 第 19 回 FD フォーラム に参加して」

全体討議

2. FD 委員会活動に関するアンケート

2009 年に開始した FD 活動が 5 年間を経過したので、その評価と今後の活動計画を作成するために実施した。回収率 42.1%であった。

○2014 年 2 月 15 日に研究活動支援のための質的研究の講演会を企画したが大雪のため中止となった。

○教育活動支援のための授業法研究会は、2012 年度のティーチングオブザイヤーの受賞者がいなかったため実施しなかった。

<まとめと課題>FD 活動 5 か年計画の評価に関して、アンケートを実施しその結果を基に研究・教育報告会で意見交換を行い、教員から多数の意見が寄せられ有意義な会となった。意見交換の中では、研究支援活動は、総合看護研究施設と連携しながらすすめていくとよいのではないかという意見もあった。今後 2014 年度以降の活動計画を作成し、総合看護研究施設との連携しながら PDCA サイクルの中での FD 活動の活性化を図っていく。

C 委員会開催状況

回	開催日	議 題
1	5 月 8 日 (水)	① 2013 年度活動方針、活動計画 ② 2013 年度の会議予定
2	5 月 29 日 (水)	① 講演会のテーマ、講師について ② FD 研修会の参加について
3	6 月 26 日 (水)	① 講演会について ② 研究・教育活動報告会について ③ 「FD 5 か年計画」の評価と今後の計画策定スケジュールについて
4	8 月 6 日 (火)	① 「FD 5 か年計画」の評価アンケートの検討 今後の日程 ② 質的研究の講演会について
5	10 月 8 日 (火)	① 「FD 5 か年計画」の評価アンケート回収状況と分析 ② 質的研究の講演会について ③ FD 研修会の参加について
6	12 月 17 日 (火)	① 「FD 5 か年計画」の評価アンケートの公表と今後の計画 ② 研究・教育活動報告会の発表者の状況と対策

		③ 質的研究の講演会について
7	1月29日(水)	① 質的研究の講演会について ② 研究・教育活動報告会について ③ 「FD5か年計画」の評価アンケートの結果から今後の活動計画を考える ② FDに関する外部研修会の参加について
8	2月12日(水)	① 質的研究の講演会について ② 今後の活動計画について(フリートーキング)
9	2月19日(水)	① 研究・教育活動報告会について
10	3月14日(金)	① 研究・教育活動報告会の評価 ② 今後のFD活動計画について ③ 2013年度のまとめ

(8) 倫理委員会

A 位置づけ・役割

人を対象とする研究活動においては、研究者はいかなる研究対象者に対しても、人として尊重され、その人権が擁護されることに責任をもち、さらに、他者および自己の知的財産権を保護することにも責任をもつ義務がある。本委員会は、これらの責任および義務を遂行するために、東海大学医療技術短期大学研究倫理指針の基本原則を示し、種々の研究活動における倫理的側面に対して、これを審査することを目的とした委員会である。

B 活動概要

本年度の倫理審査申請は延5件(初回審査4件、再審査1件)、(学外1件、学内3件)であった。結果のうちわけは、「初回審査での可(付帯事項無)1件(学外)」「初回審査での可(付帯事項有)2件」、「再審査での可(付帯事項有)1件」、であった。「可(付帯事項有)」は合計3件だが、うち2件は修正報告がなされ、「研究実施許可書」を出した。

そのほかとして、以下の対応をした。

- ① 学外より、実施済みの研究について審査依頼の問い合わせがあったが、本倫理審査は計画段階での審査であるため、対象外と回答した。

C 委員会開催状況

回	開催日	議 題
1	4月3日(水)	① 2012年度委員会の方針確認 ② 2012年度委員会開催日について ③ その他
2	10月2日(水)	① 倫理審査 初回審査2件 ② その他
3	11月6日(水)	① 倫理審査 初回審査2件(うち学外1件)
4	12月4日(水)	① 倫理審査 再審査1件 ② その他
5	3月5日(水)	① 2013年度総括 ② 2014年度定例倫理委員会日程について

(9) 教育年報編集委員会**A 位置づけ・役割**

第三者評価機関による外部評価が義務付けられたことを受け、教育研究年報は自己点検・評価の一環として位置づけられるとともに、広く社会に本学の教育研究活動の取り組みを公表することを目的として発刊する。本委員会は、その趣旨に基づき、以下の役割を担う。

- 1 教育研究年報の趣旨に基づき、その構成、記載方法に関する基準を作成し、適宜改訂する。
- 2 提出された原稿が基準に沿って適切に記述されているかを査読する。

B 活動概要

2012 年度から、専任教員は授業概要の執筆の際 PDCA サイクルを意識しながら、実施・評価・次年度への課題を記入することになり、その内容で依頼した。非常勤講師に対しても 2013 年度から依頼することに決定した。

2012 年度教育研究年報を査読し、「作成の手引き」に基づき、教職員に 2013 年度教育研究年報の原稿執筆を依頼した。

C 委員会開催状況等

回	開催日	議 題
1	5 月 22 日	① 2013 年度活動計画 ② 授業概要の記載内容について ③ 退職教員分の記載担当について
2	6 月 19 日	① 非常勤講師の授業概要記載、及び依頼について ② 年報のウェブ掲載に向けて
	5 月～6 月	第 1 回目、原稿の回覧、査読
	7 月～8 月	第 2 回目、原稿の回覧、査読
	8 月	ホームページに掲載
	2014 年 2 月	2013 年度原稿依頼

(10) 研究活動の不正防止対策委員会**A 位置づけ・役割**

本委員会は、本学における研究活動に係わる不正防止と研究費及び競争的資金等の運営・管理を適正に行うために、設置され、次の役割を担っている。

- (1) 学内での研究活動の不正防止に関する啓発
- (2) 学内での研究活動の不正防止対策に関する検討及び実施
- (3) 学内での研究活動の不正に関する調査委員会の設置
- (4) 学内での研究活動に関する不正告発相談窓口の設置

B 活動概要

研究活動の不正事項がなかったため、特別な活動は行わなかったが、2013 年度より研究活動の不正防止に関するガイドラインを作成し、啓発活動に取り組む予定である。

- C 委員会開催状況
定例委員会は、開催しなかった。

(11) 省エネルギー推進委員会

- A 位置づけ・役割
本委員会は、本学の省エネルギー対策を推進するための取組方針及び目標等を策定することを目的とする。
- B 活動概要
省エネルギー・省資源対策、その他地球環境保全について、冷暖房の温度設定、ゴミの分別収集等学内において学生、教職員に対して掲示等で周知し、配慮を呼び掛けた。
- C 委員会開催状況
定例委員会は、開催しなかった。

(12) 大学評価委員会

- A 位置づけ・役割
本委員会は、本学における教育・研究及び組織・管理運営の質的向上を図るため、必要な事項の審議・点検・評価活動を行い、学長に答申することを目的とする。
- B 活動概要
昨年行なった大学全体についての点検・評価と改善策に基づき、2013年度カリキュラムより実施できていることのほか、残された課題につき検討し、報告書にまとめた。また、選択的評価基準に基づき、教養教育としての現代文明論、地域貢献としての総合看護研究施設の活動など、本学の特色を確認・記述し、全教職員の協力を得て、資料の準備等を行った。
訪問調査を受けるにあたり、事前打合せ等を綿密に行い、準備した。
当日は台風による悪天候のため、短期大学基準協会の了解と評価委員の協力を得て、調査日程を調整し短縮化したが、短時間であっても滞りなく調査が実施された。
訪問調査後は、自己点検・評価において見出された以下の課題について、大学評価委員会として引き続き改善を図った。
- ① PDCA サイクルに基づく自己点検・評価の組織作り
 - ② 自己点検・評価の一環として教育研究年報のより明確な位置づけと活用
 - ③ 卒業生の学習成果の評価を目的とした就職先対象の調査の実施
- その他の課題、入学試験選抜方法、学生による授業評価アンケート、SD・FD 合同研修会、避難訓練マニュアルの作成、校舎の耐震工事、経営上の問題、等は、それぞれ該当する部門で検討することを確認した。
- C 委員会開催状況

回	開催日	議 題
1	4月26日(金)	① ホームページ掲載事項について ② 自己点検・評価の基礎資料および各基準の課題・改善計画・行動計画について

2	5月14日(火)	① 記述の根拠となる資料等・提出資料・備付資料の検討 ② ホームページの内容について ③ その他
3	5月28日(火)	① 選択的評価基準について ② 個人調査について ③ その他
4	6月12日(火)	① 最終資料の確認 ② 指定されているもの以外に備え付けておく方が良い資料について ③ その他
5	8月6日(火)	① 訪問調査スケジュールについて ② 学内視察について ③ その他
6	9月6日(金)	① 想定質問の回答について ② その他
7	11月20日(水)	① 第三者評価報告書で示した検討課題とすすめ方
8	2014年 1月6日(月)	① 第三者評価の内示を受けて ② 組織作りについて ③ 卒業生アンケート、授業アンケートについて
9	1月22日(水)	① 卒業生の就職先調査について
10	2月19日(水)	① 卒業生の就職先調査について
11	3月11日(火)	① 卒業生の就職先調査について ② その他

D 資料

卒業生の就職先での実態調査

はじめに

2009年度より新しいカリキュラムによる教育を行い、その学習成果およびカリキュラムに対する評価についての調査を2011年度に実施し報告したが、学習成果については学生の自己評価によるものであった。そこで、2012年度には東海大学医学部4病院の看護部長より就職後の卒業生の状況につき意見を求め教育活動へ反映させたが、対象病院が限定されており、結果も学内での共有にとどまっていた。そこで、今回公開を前提とした2013年度卒業生の就職先の全施設を対象に調査を行った。

I 調査方法

1. 調査対象

2013年4月に本学卒業生が就職した全6病院の看護部責任者および看護単位責任者

2. 調査方法

1) 調査票 独自に作成した以下の2種類

- ① 看護部責任者用：就職者数、配属病棟、希望部署との適合、異動者の有無と理由、退職者の有無と理由
- ② 看護単位責任者用：所属看護単位、病棟等配置状況、勤務状況、看護実践能力、その他

- 2) 依頼方法 就職先病院の看護部長に直接または電話で概要、個人情報保護および結果公開の予定等の倫理的配慮について説明・依頼して了解を得たのち、依頼文書および必要数の調査票を送付。20日程度を目標に返信を依頼。
- 3) 調査期間 2014年3月17日～4月7日

II 結果

1. 回答状況

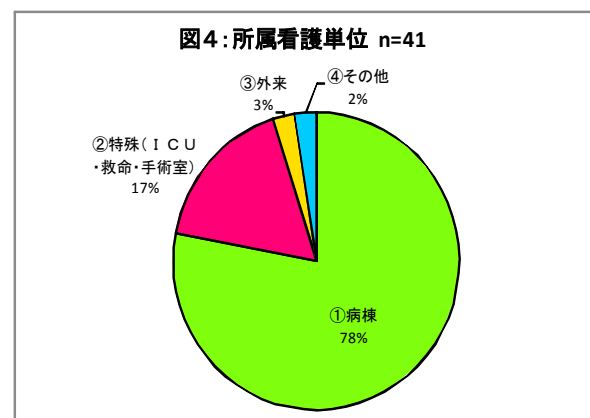
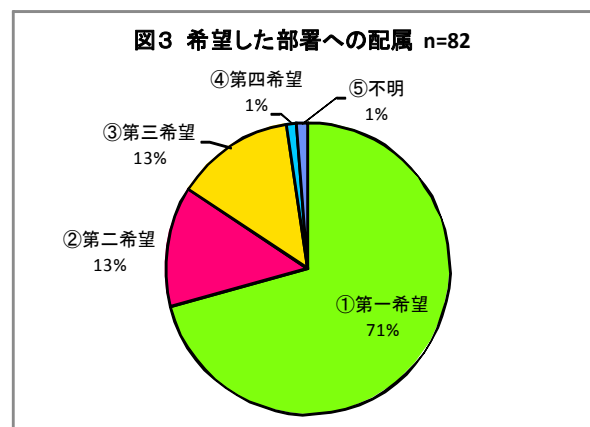
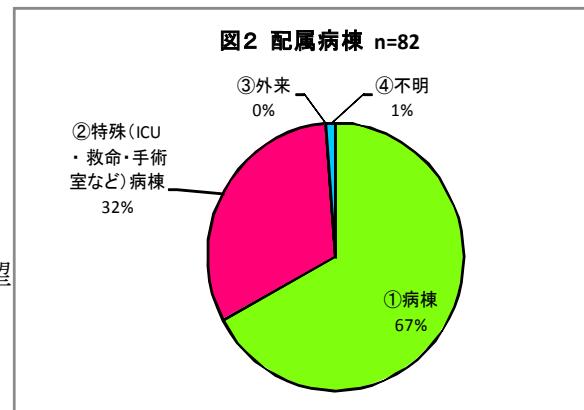
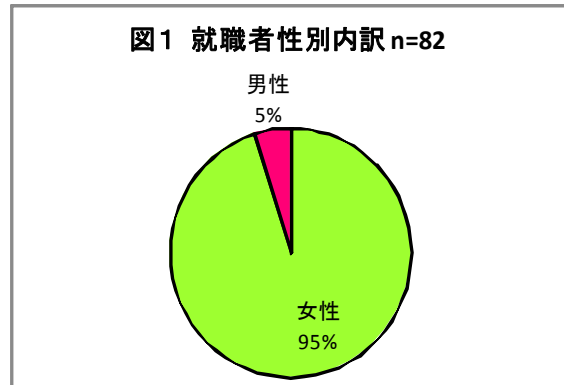
看護部責任者6名から回答を得た。看護単位責任者は41名であった。

2. 看護部責任者用アンケート結果

- 1) 就職者数 全就職者82名、うち男性4名。(図1)
- 2) 配属病棟 (図2) 入職時の配属は、一般病棟が55名(67%)、特殊病棟(ICU・救命・手術室)(以下特殊病棟とのみ記述)が26名(32%)と、3分の2が一般病棟であり、外来0%・その他は1名(1%)であった。
- 3) 希望部署 (図3) 第1希望が58名(71%)、第2・第3希望が各11名(13%)、第4希望1名(1%)、不明1名(1%)であり、7割以上が第1希望だが、第3希望にも該当しない病棟への配属がわずかながら見られた。
- 4) 1年間で異動した卒業生 全病院で計4名が異動していた。時期は8月、10月、12月、2014年4月であり、理由は、「スタッフとの人間関係がうまくいかなかった」「自身の病気」、「その他」であり、「その他」の内容は、『体力的な問題』『他の病棟への興味』があげられていた。
- 5) 1年間で退職した卒業生 全病院で計2名いた。退職時期は、8月、2014年3月で、理由は、「自身の病気」、「元々看護師を希望していなかった」であった。

3. 看護単位責任者用アンケート結果

- 1) 回答者の所属看護単位 (図4) 回答のあった病棟は41か所、一般病棟78%、特殊病棟17%であった。調査時期4月の所属としては外来と血液浄化センターがあがっていたが、10月と8月の途中異動の卒業生であった。
- 2) 所属病棟等への配置状況に関しては、本学卒業生以外の就職者も含まれた人数を記載されていることがあり、集計から除外した。



3) 勤務状況

1) 遅刻や早退、急な休暇等の状況

回答者 41 人、回答数 45 件

要約	回答例
勤務状況良好 (20 件)	遅刻もなく勤務態度は問題ありません
遅刻等 1 回～2 回 (7 件)	寝坊して遅刻が 1 回あったのみ
病気休暇 (メンタルトラブル 4 件を含む) (17 件)	遅刻や早退はなかった、体調不良による、急な休暇は生じた
異動後勤務状況良好 (1 件)	

2) その他

回答者 6 人、回答数 6 件

要約	回答例
真面目に努力している (3 件)	勤務開始 1 時間前より出勤し、情報収集に努めていました
	先輩の指導を素直に聞き入れ真面目に一生懸命、勤務しています
社会人としての自覚がうすい (3 件)	やはり 1 年目という甘えがみえていた。夜勤が 2 深つづくとは思わなかったよう (先輩たちは 2 深はあたり前にやっているが、自分がやるとは夢にも思っていない)
	毎月、周期そろっての休み希望を出してきたので毎月は無理であることを伝えた

4) 看護実践能力の状況

1) 対人関係・コミュニケーション能力

(1) 患者や家族等との対人関係・コミュニケーション能力

① 優れていると思うところ (回答者 36 人、回答数 43 件)

要約	回答例
言葉かけがやさしい (9 件)	個人差があるが、1 名は患者にやさしく、患者から責任者に感謝の言葉があった
	優しく安心感を与えるコミュニケーションがとれている
	やさしくて言葉使いもやわらかい
丁寧な対応ができています (9 件)	優しく丁寧でとてもよい
	患者家族にやさしく、ていねいに対応している
	対応が丁寧で礼儀正しい自分が分からない事は曖昧に答えず先輩に相談したり調べてから対応している
傾聴する姿勢がある (8 件)	患者・家族の思いを理解しようという姿勢が優れている
	相手の思いを汲み、対応している
	傾聴しようとする姿勢は高く評価できる
	最後まで訴えを聞くことができる
笑顔で接する (5 件)	緊張しているが、患者さんに笑顔で接するところ
	感情のコントロールも上手に出来ており笑顔で接する事が出来ていました
患者から好意的反応をもらえる (3 件)	患者様からのご意見箱に、名指しで「はきはきと元気よく、細いところ迄気がつく方で、安心できるような声かけをしてもらった」という投稿をいただきました
	患者さんより応援メッセージをもらうなど良好な関係が築けている
マナーが良い (3 件)	謙虚な姿勢で対応することができていたと感じる
	笑顔、挨拶、言葉づかい、接遇マナーができています
コミュニケーション力がある (3 件)	どのような対象とも自らコミュニケーションをとる姿勢は見られている
	個人差があります。対応が上手な人もいます

積極的なかわりの姿勢がある（1件）	自分の業務が忙しい日も時間を作り関わっている場面が多くみられた
考えさせる患者指導ができる（1件）	指導看護師が一方的に説明するのではなく、患者と共に考えさせる方法は良い
そつなくこなす（1件）	そつなくこなすところ

②困難性が高いところ（回答者 21 人、回答数 27 件）

要約	回答例
聴いたことを生かせない（6件）	アセスメント能力がないので、聞くだけになっている
	得た情報を問題解決につなげられない
	社会的背景までみずえた関わりは不十分
十分な説明ができない（4件）	訴えの本質がとらえられず、表面的対応で家族から対応に納得がいかないと苦情が発生したことがある
	不明瞭な説明をする事があり、誤解を与える事があります
イライラした態度がみられる（3件）	訴えが多い患者などに対して、イライラした態度がみられた
冷たい態度がみられる（2件）	あっさりそつなく対応する為、受け取る側のタイプによっては“冷たい”と指摘されるが、注意しても、それを自覚できない
訴えの確認が不足している（2件）	相手が何を（情報・説明など）求めているか確認がたりない、通り一遍のコミュニケーション
コミュニケーションが不足している（10件）	あいさつが積極的にできていない
	言葉づかい、マナーが、悪いこともある
	笑ってごまかす傾向あり

（2）スタッフ等との対人関係・コミュニケーション能力

①優れていると思うところ（回答者 34 人、回答数 36 件）

要約	回答例
先輩と話せる（10件）	不安なこと、困ったことなどきちんと先輩に相談できる
	先輩や医師とも、うち解けるのが早く、上手に立ち振る舞う事が出来ていました
誰とでもコミュニケーションとれる（9件）	誰とでも分け隔てなく対応できる、自分の感情を優先しない
	実習で来ている分、指導をうけた看護師がいたりするので十分コミュニケーションはとれていると感じた
素直（6件）	素直に受け入れることができた
	先輩からの指摘は素直に受けとめる
報告・連絡・相談が行える（4件）	礼儀正しく、報告、連絡、相談の声をかけられる事
	報告、連絡、相談が行えている（安全を考慮した）
穏やかでやさしい（4件）	優しく丁寧でとてもよい
その他（3件）	真面目に努力する方が多いので、スタッフから好感持たれています

②困難性が高いところ（回答者 22 人、回答数 24 件）

要約	回答例
自分を表現するのが苦手（9件）	積極的に自分の意見を伝えられないこともある
	自分の思いを表現することが苦手、表現する時は相手がどのように受け止めるのかまで考えられない
報告連絡相談が遅れる（6件）	相手の状況を窺うあまり、必要な相談や報告が遅れることがある
	報告、等がタイムリーでなく、対応が遅れる事がある
指導が受け入れられない（5件）	先輩が、オブラートに包むような注意の仕方をしていても気づかない

	あきらかに誤っているであろう事でも「見ました」「やりました」と自分を正当化する所がありました
	仲間うち（1年生内）では、かなり文句を言っているよう
甘えすぎ（1件）	甘えすぎ
その他（3件）	良く見られたい、自分の悪い部分が見つからないようにする為のコミュニケーション（それ本心？と思うことあり）
	積極的に聞きすぎ、スタッフが圧迫感を感じる事がある
	緊張してしまう知識不足に伴う説明不足

2) 対象に応じた看護の計画的展開能力（アセスメント・計画・実施 等）

①優れていると思うところ（回答者 18 人、回答数 18 件）

要約	回答例
スタンダードな展開ができる（6件）	スタンダードケアプランはできる
	大きく逸脱した計画はなく、リーダーの指示のもと実施する
一生懸命考える（6件）	患者さんのために一生懸命に考え勉強すること
	コツコツと勉強し、能力を高めている所
個別性のある計画が立案できる（3件）	患者に応じた Plan 立案が行えている（アセスメント・修正）
その他（3件）	科学的根拠に基いた看護を実践できる

②困難性が高いところ（回答者 25 人、回答数 25 件）

要約	回答例
全体像とらえるのが難しい（8件）	患者を部分的にしか見れておらず、全体的な見方がうすい
	物事の関連性を考える事が出来ず、思考の幅がせまい
計画に個別性欠ける（5件）	スタンダードケアプラン以上のことは困難
	計画立案評価修正が Pt 状況に合わせてできていない
介入が遅れる（2件）	予測性に乏しく、介入が遅れる事が多い
計画修正なし（2件）	積極的な計画修正がなかった
看護診断の学習少ない（1件）	看護診断についての学習が少ない
能力的にまだ無理（5件）	まださせていません、能力的にまだ無理です。
その他（2件）	知識・経験が浅いことでスキルはまだ不十分、さらに、積み重ねや応用力が弱い

3) 看護技術

①優れていると思うところ（回答者 21 人、回答数 21 件）

要約	回答例
技術の習得に前向きである（7件）	何度でも経験しようとする
	初めて行う処置等について、必らず相談することができる
訴えを聴ける（3件）	患者及び家族の訴えをしっかりと聴くことが出来ていました
基本的技術の提供ができる（5件）	基本的な技術の提供は行えている
覚え方が早い（2件）	覚え方が早い
声かけが適切である（2件）	仕事が丁寧で声かけも適切である
その他（2件）	ていねいなところ

②困難性が高いところ（回答者 22 人、回答数 22 件）

要約	回答例
頻度の少ない技術はできない（6件）	経験できる機会が少ないので仕方がないがドレーン挿入や穿刺による検査の介助など侵襲度の高い処置介助は難しい
技術が未熟である（8件）	実践していることが少ないため自信がない

	一般的に習得される技術ができません
根拠づけが乏しい (3件)	手順のみを理解し、必要性などは理解できていない事が多い
事前学習が不足している (3件)	初めての技術でも事前学習してこない
優先順位の判断が困難である (1件)	時間管理や優先順位の決定あわてること (多重業務)
分からないことを分からないままにする (1件)	分からないことを分からないままにしてしまう、消極的である

4) 医療安全

①優れていると思うところ (回答者 22 人、回答数 22 件)

要約	回答例
確認を怠らない (9件)	確認を行う際は基本に忠実で、薬剤名などしっかり声に出して確認することができている
ルールを守れる (5件)	ルールに沿って行えている
報告連絡相談が行える (3件)	医療安全セミナーへの参加、連絡、報告、相談がタイムリーに行えており、必要な安全行動がとれている、インシデントが少ない
注意している (3件)	常に医療安全に努め、インシデントを最小限に留めた
同じ失敗を繰り返さない (2件)	インシデントの事象に対して、再発させない為の自らの行動を振り返り、活かそうとしている

②困難性が高いところ (回答者 22 人、回答数 26 件)

要約	回答例
状況判断できない (6件)	一つに集中すると他が見えなくなり、見おとしや忘れるなどのインシデントが発生していました
予測性を持った行動ができない (4件)	実践の場ではなにもかもが初めての状況で、予測性を持って行動することは困難である、何が正常か異常かの判断に1年間でなんとか習得できている状況、失敗の中から学んでいる状況にある
同じミスを何度も繰り返す (4件)	同様の注意を先輩からうける事が多い
思いこみで行動する (3件)	思いこみが強いところがあり、異常な事に気がつかない事がある
自己判断してしまう (2件)	自己判断で誤った方法を選択し実施してしまったことがあった
その他 (7件)	病院内で起きているインシデントを自分が起こしたものでない限り、自分の行動レベルで活用できない

5) チームにおける連携・協働・調整

①優れていると思うところ (回答者 24 人、回答数 24 件)

要約	回答例
チームの中で新人として努力している (8件)	チームの一員として、係活動やケアについて役割を果たそうという姿勢があった 自分にできることをしようとしてくれるところ
与えられた業務をやり遂げようとする姿勢がある (4件)	自分に与えられた業務を責任を持って最後まで遂行することができます
先輩に相談できる (4件)	チームの中で先輩に相談ができる
指示に従う (2件)	言われた事はやりとげる所
仕事に向かう姿勢が良い (3件)	全体的に真面目です
情報共有ができている (3件)	看護スタッフ以外にも医師や他コメディカルスタッフとの情報共有ができている

②困難性が高いところ (回答 16 人、回答数 16 件)

スタッフとの連携が不十分である (6 件)	まだ時間調整が上手にできない部分があるが他スタッフへ援助を求めることができない時がある
自分のことで精いっぱいである (4 件)	自分のことで精一杯なので周囲に目をむける余裕はない
主体性に乏しい (2 件)	主体性に乏しい
	自主性は低い
その他 (4 件)	報告・連絡・相談が少ない

6) 倫理的配慮

①優れていると思うところ (回答者 14 人、回答数 15 件)

要約	回答例
相手の気持ちを配慮する (7 件)	患者さんの身になり看護しようと努力している所
個人情報 を慎重に取り扱う (4 件)	個人情報の取り扱いには皆、よく注意している
その他 (4 件)	看護観が、育ぐくまれている

②困難性が高いところ (回答 14 人、回答数 14 件)

要約	回答例
倫理についての理解が乏しい (7 件)	倫理的配慮への意識の視点が向けられていない
	配慮が足りず、受けたクレームを自覚がない為素直に受け入れられない
	研究倫理 (事例) に関して、詳細な指導、教育が必要
	倫理的配慮がどのようなことなのか深く考えていない
	倫理について理解が乏しいと思われる
	何が倫理的問題か分かっていないところ
プライバシーを配慮できないことがある (2 件)	急性期ということで (環境) 他の患者や家族へ聞こえるぐらいの大きな声で話していることがある
その他 (5 件)	先輩看護師の言うことに流されてしまう、疑問を他者に伝えられない

7) 自己研鑽

①優れていると思うところ (回答者 29 人、回答数 29 件)

要約	回答例
勉強会への参加が良好である (8 件)	全てに関心があり、勉強会への参加状況が良かった
	学習意欲があり研修に自らすすんで参加していた
積極的な勉強姿勢がある (8 件)	毎日、仕事が終わると疲れ切っていたが、勉強しようという姿勢はあった
自己学習をよく行っている (7 件)	自己学習をきちんとしてくる、学ぶ意欲が高い
	わからないことなどは早目に調べるようにしている
指導を受け止め成長できた (4 件)	指導を受け止め改善する意識が高い
その他 (2 件)	業務やチームになじもうと努力できている

②困難性が高いところ (回答者 19 人、回答数 19 件)

要約	回答例
積極性が乏しい (8 件)	根拠が理解していなくても、実践ができればそれ以上の勉強や裏づけをしない傾向あり
	与えられたこと以上には、積極性がない
	求められることが難しいため、新人では何をして良いかわからない現状 (心情) なのではないかと感じる
自己洞察できない (2 件)	自分の対応に不満がある人がいる、ということを受け止め、態度に配慮ができるようになると、更に成長できると思うが、まだその域には達していない
	院内以外の方法で自己確認する姿勢がない

学習方法が分からない（2件）	学習（自己）の方法がわからない者がいる、学習方法指導にも理解が得られない
その他（7件）	自分が目指す将来像があまりない

5) その他

1) 肯定的意見（回答者4人、回答数4件）

学ぶ姿勢あり (4件)	学校から、厳しく指導されているためか、先輩の指導についていこうとしている人が多いと思います、社会性もあり、他の学校の卒業生より、責任性、規律性もあります
	今年度は該当1名のみでした、他校からの新人と力をあわせ、1年間頑張ったと思います、常に学ぶ姿勢と素直な気持ちを持ちあわせているスタッフだったので大きく成長できたのではと思います
	困難な状況におちいったのにもかかわらず、前向きにしっかりと対処することができていました

2) 困難点への意見（回答者8人、回答数8件）

実践と学習の ギャップ 大きい（2件）	個々に適応能力は異なり、また成長度やコミュニケーション度合も違う、残念ながら、途中退職した卒業生もいた、実践の場と学習の場のギャップが大きく、適応・受容には非常に時間を要し、フォローを十分にしないと、続けられないケースも近年は多いと感じる
	現場で理想とのギャップに悩むことが多い（現場の厳しさを知らない）
メンタルが 弱い（2件）	とにかくうたれ弱く「サポートされる」事を望みます。出来ない事は全て他人のせいという考えや、すぐに体調不良となるため働く＝お金をもらう事を自覚してから就職してほしいです
	性格はとてもしっかりしていますが、看護師に必要な知識・技術・判断の部分で足りていませんでした、一人前としていつ自立できるか不明です、とにかくメンタルが弱く、1つのことが引き金となり、仕事に支障をきたしてしまいます、へこたれないという精神は難しいようです
その他（4件）	解剖生理学の知識が日常ケアについていけない

III 考察

1. 配属先への適応および勤務状況について

1年間での異動が4名、退職者は2名（2.4%）であった。退職者の2.4%は全国平均7.9%（日本看護協会2012年度新卒看護職員離職率）と比較すると少ない方であり、概ね良好と考えられるが、1年間での退職者の理由および、病気休暇の内訳等をみると、卒業をした直後であっても進路への迷いが生じたり、職場にうまく適応できない者がいることに着目する必要がある。本学は、入学から卒業までの期間における退学者は一般に比較し少ないが、就職後あまり日数を経ずに他の道を選ぶ者がいることは社会の側からは問題と思われる。青年期にある学生たちは一度決めても新たな可能性にチャレンジしたいと思うことは大いにありうることであり、それを否定するものではないが、すぐに辞めることのないよう就職前に十分進路相談等で対応してゆく必要がある。

2. 看護実践能力について

1) 対人関係・コミュニケーション能力

①患者や家族との対人関係・コミュニケーション能力

【言葉かけがやさしい】【丁寧な対応ができています】【傾聴する姿勢がある】など教育目標に掲げている「人間愛を深め、生命の尊厳と人間性の尊重を基調とし調和のとれた社会人としての成長をめざす」の達成を意味するものと考えられる。その一方、【聴いたことを生かせない】【十分な説明ができない】など専門職業人として重要な「説明責任」を果たす力の弱さを感じさせる。さらに、回答例として僅かではあるが、「挨拶が積極的にできていない」「言葉づかい、マナー、が悪いこともある」な

どの意見があるため、社会人としての基礎的な姿勢を身につけられるよう指導していく必要がある。

②スタッフとの対人関係・コミュニケーション能力

【先輩と話せる】【誰とでもコミュニケーションとれる】など優れたところがある一方、【自分を表現するのが苦手】【報告連絡相談が遅れる】など、日頃より課題としていることが、就職後でも困難なところとして指摘されており、アサーティブネスなど一層の教育指導が必要と考えられた。

2) 対象に応じた看護の計画的展開能力

【全体像をとらえるのが難しい】【計画に個別性欠ける】などの指摘があったが、【スタンダードな展開ができる】など肯定的意見もあった。能力的にまだ無理であるという意見もあった。就職1年目の到達は難しいものの、教育では個別性の重要性を強調しており、今後も継続して重要性を強調してゆく必要があると考える。

3) 看護技術

【技術の習得に前向きである】など肯定的な意見と、【技術が未熟である】【頻度の少ない技術はできない】などの意見があり、基礎教育としての限界もあると思われるが、【根拠づけが乏しい】【事前学習が不足している】などは、学習や行動の習慣化として基礎教育で取り組むべき課題と考えられた。

4) 医療安全

【確認を怠らない】という安全を守る上で非常に重要なことの習慣づけがある程度できていることを推測させる意見があった一方、【状況判断できない】【予測性をもった行動ができない】など、基礎教育として工夫を要する課題と思われることの指摘もあった。医療安全に関する教育の充実をはかることが必要と思われた。

5) チームとの連携・協働・調整

【スタッフとの連携が不十分である】【自分のことで精いっぱいである】など、新卒看護師としてある程度はやむを得ないと思われる状況の指摘もあったが、【チームの中で新人として努力している】など、前向きに取り組む姿勢に対する肯定的意見があった。実習の中で看護チームの一員としての意識を高めていけるよう働きかけていく。

6) 倫理的配慮

【倫理についての理解が乏しい】との指摘や、【プライバシーを配慮できないことがある】などの意見もあるが、【相手の気持ちを配慮する】【個人情報を慎重に取り扱う】などからは、基本的な姿勢が培われていると思われる。教育目標で「保健医療福祉のなかで生じる問題を理解し、倫理的・道徳的に対処する能力を身につける」を掲げており、今後も引き続き教育に力を入れてゆく必要がある。

7) 自己研鑽

【積極性が乏しい】【自己洞察できない】という困難性を示す意見と、【勉強会への参加が良好である】【積極的な勉強姿勢がある】などの肯定的意見があった。しかし、「学習方法がわからない者がいる」や「自分が目指す将来像があまりない」という意見もあり注目すべきものと考えられる。継続学習のための学習手段の獲得に向けた教育を強化していく必要がある。

IV まとめ

卒業1年目の本学卒業生について就職先から率直な意見をいただき、その動向および看護実践能力について、やさしさや丁寧な対応、まじめに努力する姿勢など、優れていると思われるところと、自分を表現することが苦手、積極性の乏しさなど困難性が高いところの傾向を知ることができた。優れているところは伸ばし、困難性の高いところは少しでも改善できることをめざして、今後の教育に活かしてゆきたい。

調査にご協力いただいた病院の部長・看護師長のみなさまに感謝いたします。